

1. 略歴

1984年4月	東京大学文科Ⅲ類入学
1988年3月	東京大学文学部社会心理学専修課程卒業
1988年4月	株式会社 日本長期信用銀行 入行
1992年4月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程入学
1994年3月	同 修了 (修士 (社会心理学))
1994年4月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程進学
1997年3月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士課程単位取得退学
1998年4月	京都大学総合人間学部基礎科学科 助手 (2000年3月迄)
1999年3月	東京大学大学院人文社会系研究科 博士 (社会心理学) 取得
2000年4月	岡山大学文学部行動科学科 助教授
2001年4月	岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻 助教授 (兼任)
2004年4月	横浜国立大学経営学部 助教授
2005年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 助教授
2007年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 准教授
2011年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授
2011年10月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会心理学

b 研究課題

心と社会環境の相互構成過程の探究

- 1) 多元的無知による集団規範の維持過程
- 2) 文化的慣習の社会生態学的基盤
- 3) 組織文化・風土をめぐる諸問題

c 概要と自己評価

1) 集団規範の生成と再生産過程…人は周囲の他者の行動を観察し、特定の行動が共有されていると感じることによって、「規範」の存在を知覚する。人はその知覚に基づき、たとえそれが自らの選好とは異なっても、規範にしたがった行動をとる傾向がある。この行動がさらに他者によって観察されることで、やがて、実際には誰も望んでいないはずの規範が予言の自己成就的に維持・再生産される。こうした「多元的無知」現象の共同主観的な相互規定メカニズムを検討することは、心の社会・文化的起源を探るうえで重要な意味をもつと考えられる。私たちは、実験室内にミニマルな規範伝達の連鎖を作り出すことで、このメカニズムに迫る試みを行っている。また、多元的無知の生起や伝播に影響を及ぼす社会環境の特質の探究も進めている。

2) 文化的慣習の社会生態学的基盤…ある社会や集団において、特定の慣習や思考様式が共有され、維持されている理由について体系的な検討を行うには、その慣習や思考様式を取り巻く生態環境の特質と歴史、環境に適応する過程で作られた特有の社会構造や人間関係のありよう、それらの維持・再生産に寄与する個々人の心理や行動の特質、といった諸変数間の関係を丹念に探り、描き出すことが必要となる。私たちは、社会の現場における慣習や思考様式の「事例」に焦点を当て、マイクロ・エスノグラフィーの研究方法论を用いてその生成・維持過程を継時的に追跡する試みを行っている。

3) 組織文化・風土をめぐる諸問題…国や民族といった大きなレベルの文化に比して、小規模で人の入れ替わりが頻繁に行われる企業組織の文化は、変化プロセスの把握が比較的容易であるため、心と文化に関わる理論構築に向けた検証が行いやすいという利点がある。私たちのこれまでの研究では、強い組織文化は組織変革にとって正負両面の効果をもつ (生産性向上のための学習を促進する一方で、環境変化に対応した柔軟な変革を抑制しうる) ことが示された。現在はさらに視野を広げ、各種の人事制度 (ハード) と文化・風土 (ソフト) の相互作用の様相や、それらが従業員心理・行動に与える多面的な影響過程についての検討を行っている。

自己評価

研究の実施にあたっては、研究室所属の大学院生はもとより、国内外の研究者（経営学・社会学・人類学等の関連他領域を含む）とも広く連携して、国際的・学際的な視野に立つ共同研究プロジェクトとしての展開に努めている。一部のテーマに関しては科学研究費の助成を受けている。いずれの研究テーマに関しても、その成果は随時、学会発表および学術論文として発信している。また、企業や地域共同体など、社会の現場に根差した研究を手がけていることから、実社会への研究成果の還元と、産学連携にも努めている。

d 主要業績

(1) 著書

村本由紀子、「社会と個人」、繁榊算男（編）『公認心理師の基礎と実践：②心理学概論』、pp. 161-176、遠見書房、2018
村本由紀子、「インフォーマル・インタビュー」「インフォーマント」「データ収集と分析の往復」「フォーマル・インタビュー」、pp. 11-12, 117, 147-148、能智正博他（編）『質的心理学辞典』、新曜社、2018
池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、『New Liberal Arts Selection 社会心理学（補訂版）』、有斐閣、482pp、2019

(2) 論文

Daniel A. Effron, Hazel Rose Markus, Lauren M. Jackman, Yukiko Muramoto, & Hamdi Muluk、「Hypocrisy and culture: Failing to practice what you preach receives harsher interpersonal reactions in independent (vs. interdependent) cultures.」、『Journal of Experimental Social Psychology』、76、371-384 頁、2018.5
正木郁太郎・村本由紀子、「性別ダイバーシティの高い職場における職務特性の心理的影響：仕事の相互依存性と役割の曖昧性に着目して」、『経営行動科学』、30、133-149 頁、2018.7
鈴木啓太・岡蒼透・村本由紀子、「実体理論者が努力を重視するとき：他者の能力評価における評価者の暗黙理論と努力情報の効果」、『人間環境学研究』、16、83-88 頁、2018.12
岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子、「労働市場における個人のパフォーマンスと流動性の関連について：組織風土・移動コストの調整効果に着目して」、『経営行動科学』、31、101-116 頁、2020
Keita Suzuki, Tomoya Yoshino, and Yukiko Muramoto、「The effects of a selection system and implicit theories on individual effort.」、『Japanese Journal of Experimental Social Psychology』、(in press)、2020

(3) 学会発表

国際、Ikutaro Masaki & Yukiko Muramoto、「The joint effect of diversity climate and value diversity on employees' motivation for a promotion: A case of global manufacturing company in Japan.」、The 29th International Congress of Applied Psychology、Montreal, Canada、2018.6.27
国際、Keita Suzuki & Yukiko Muramoto、「The effects of implicit theories and task-switching cost on individuals' performance of a task.」、The 29th International Congress of Applied Psychology、Montreal, Canada、2018.6.29
国際、Shuma Iwatani, Kazumu Takahashi, & Yuiko Muramoto、「Social mobility and the fear of bad reputation.」、The 29th International Congress of Applied Psychology、Montreal, Canada、2018.6.30
国際、Keita Suzuki, Yukiko Muramoto, & Aoto Oka、「How do incremental and entity theorists perceive the relationship between other's effort and outcome?」、The 24th Congress of the International Association of Cross-Cultural Psychology、Guelph, Canada、2018.7.3
国際、Yukiko Muramoto、「Effects of institutional factors and leadership structures on workplace norms and employees' work attitude in Japan.」、The 24th Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology、Guelph, Canada、2018.7.5
国内、岩谷舟真・村本由紀子・小泉喜之介・芹澤鮎子・栗本真奈、「多元的無知の維持メカニズム：逸脱者罰と関係流動性に着目して」、日本社会心理学会第 59 回大会、追手門学院大学、2018.8.20
国内、鈴木啓太・吉野智哉・村本由紀子、「選抜制の有無と暗黙理論が努力量に与える影響」、日本グループ・ダイナミックス学会第 65 回大会、神戸大学、2018.9.9
国内、岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子、「個人の社会的価値と流動性の関係、および組織風土の調整効果」、日本心理学会第 82 回大会、仙台国際センター、2018.9.25
国内、村本由紀子、「地域コミュニティ研究のこれから：離島漁村のフィールドワークを例にして」、日本心理学会第 82 回大会、仙台国際センター、2018.9.25
国内、村本由紀子、「心理学を広くひとに伝える：翻訳出版の経験から」、日本心理学会第 82 回大会、仙台国際センター、2018.9.25

国際、Shuma Iwatani, Aki Hasegawa, Yukiko Muramoto, Ikutaro Masaki, & Shiho Imashiro, 「Effects of social and individual mobility on reputation estimation.」、The 13th biennial conference of Asian Association of Social Psychology、Taipei, Taiwan、2019.7.11

国際、Keita Suzuki, Mayu Yasuda, & Yukiko Muramoto, 「Task choice strategies of entity and incremental theorists in daily lives: Investigation through situation sampling method」、The 13th biennial conference of Asian Association of Social Psychology、Taipei, Taiwan、2019.7.12

国内、仲間大輔・仲村友希・村本由紀子、「貢献能力の格差と組織内協力: 社会的ジレンマ状況を用いた実験研究」、日本産業組織学会第35回大会、日本大学、2019.9.1

国内、村本由紀子、「心理統計で何を教えるべきか: 頻度主義・ベイズ主義の対立を超えて(指定討論)」、日本心理学会第83回大会・公募シンポジウム、2019.9.11

国内、岩谷舟真・長谷川明紀・村本由紀子・正木郁太郎・今城志保、「企業サイズとその関係流動性が評判低下予測に与える影響」、日本心理学会第83回大会、立命館大学、2019.9.13

国内、鈴木啓太・吉川元・村本由紀子、「教師のフィードバックが生徒の新規課題へのモチベーションに与える影響」、日本心理学会第83回大会、立命館大学、2019.9.13

国内、村本由紀子、「"ネット民"という集団のダイナミクスを探る(指定討論)」、日本グループ・ダイナミクス学会第65回大会・大会準備委員会企画シンポジウム、富山大学、2019.10.19

国内、Keita Suzuki & Yukiko Muramoto, 「You will never know unless you try hard: When entity theorists value effort」、日本グループ・ダイナミクス学会第66回大会、富山大学、2019.10.19

国内、岩谷舟真・長谷川明紀・村本由紀子・正木郁太郎・今城志保、「いかなる場合に規範逸脱の発覚可能性は高く見積もられるか: 集団サイズと社会の流動性に注目して」、日本グループ・ダイナミクス学会第66回大会、富山大学、2019.10.20

国内、岩谷舟真・長谷川明紀・村本由紀子・正木郁太郎・今城志保、「"不人気な規範"の維持メカニズムについての検討: 流動性に着目して」、日本社会心理学会第60回大会、立正大学、2019.11.9

国内、鈴木啓太・村本由紀子、「暗黙理論の形成に影響を与える教育環境的諸要因の検討」、日本社会心理学会第60回大会、立正大学、2019.11.9

(4) 会議主催(チェア他)

国内、「日本心理学会第82回大会・大会準備委員会シンポジウム」、地域コミュニティ研究のこれから、仙台国際センター、2018.9.25

(5) 受賞

国内、今瀧夢・相田直樹・村本由紀子、日本社会心理学会賞(優秀論文賞)、「リーダーの暗黙理論がチーム差配に及ぼす影響: 失敗した成員に対する評価に着目して」、日本社会心理学会、2018.8.28

国内、岩谷舟真・村本由紀子、日本社会心理学会賞(奨励論文賞)、「規範遵守行動を導く2つの評判: 居住地の流動性と個人の関係構築力に応じた評判の効果」、日本社会心理学会、2018.8.28

国内、岩谷舟真・村本由紀子、日本グループ・ダイナミクス学会賞(優秀論文賞)、「多元的無知の先行因についての検討: 他者の嗜好推測に注目して」、日本グループ・ダイナミクス学会、2018.9.8

(6) 翻訳

P・プラサド(著)、箕浦康子・町恵理子・浅井亜紀子・山下美樹・伊佐雅子・時津倫子・村本由紀子・藤田ラウンド幸世・岸磨貴子・灘光洋子・岩田祐子・谷口明子・小高さほみ・柴山真琴(訳)、『質的研究のための理論入門: ポスト実証主義の諸系譜』、ナカニシヤ出版、2018.11

(7) 共同研究・受託研究

共同研究、村本由紀子・岩谷舟真・今城志保、株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、「多元的無知の維持メカニズムの調整要因の検討」、2019～

(8) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C)、村本由紀子、研究代表者、「集団規範の形成・維持に関わる自他の相互作用過程の探究」、2019～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、筑波大学附属高等学校、「進路説明会(社会学系分科会)」、2018.7

非常勤講師、放送大学神奈川学習センター、「木を見る西洋人 森を見る東洋人」、2018.10～2019.3

セミナー、NTT データ経営研究所 応用脳科学コンソーシアム、「Japan Branding Workshop : 外国人にとっての『日本らしさ』とは」、2018.10

セミナー、筑波大学附属高等学校、「進路説明会（社会学系分科会）」、2019.7

非常勤講師、放送大学神奈川学習センター、「木を見る西洋人 森を見る東洋人」、2019.10～2020.3

(2) 学会

国際、Asian Association of Social Psychology、Editorial Board Members、2018.1～

国内、日本社会心理学会、常任理事、学術雑誌編集委員長、2019.4～

国内、日本グループ・ダイナミクス学会、理事、編集委員、2015.4～2019.3